

松田町地域公共交通総合連携計画に向けて

松田町のすがた

①交通利便性の高い立地

本町は神奈川県西部、足柄上郡のほぼ中央に位置しています。東京から約 70Km の距離にあり、小田急線、御殿場線の 2 本の鉄道、東名高速道路、国道 246 号等が交差する交通の要衝となっています。

駅を中心としてバス路線も広がっており、周辺住民の日常の足として、また足柄上地区を訪れる観光客の足として多くの人に利用されるなど、交通利便性の高い立地であることがうかがえます。

②限られた宅地面積

本町は南北に長い地形をしており、総面積 3,775ha の大部分が山岳部で占められ、北側は丹沢大山国定公園に指定される西丹沢山系と山麓に広がる傾斜地となっています。

南側は酒匂川流域の平野部に市街地が広がっていますが、道路や鉄道などが集中しており、宅地面積は 3.6%と限られています。

③「松田地区」と「寄地区」が合併した町

現在の松田町は、昭和 30 年に旧松田町と寄村が合併して誕生しました。

現在でも、酒匂川と川音川による扇状地状の沖積平野に位置する「松田地区」と、背後に丹沢大山国定公園を抱えた「寄地区」の大きく 2 つの特徴ある地区に分けられます。

④人口動向

本町の人口は、昭和 30 年合併当時の 10,190 人から、鉄道輸送力の向上などの発達により、首都圏近郊の居住地域として発展し、平成元年には 13,000 人台に達しました。平成 10 年度までの 10 年間は横ばい状態にありました。

平成 7 年 4 月の 13,320 人をピークに減少し、平成 21 年 4 月は 11,806 人と、14 年間で 1,514 人、年平均で 108 人が減少したことになります。「日本将来推計人口（平成 18 年 12 月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）の推計によれば、平成 27 年が 11,259 人、平成 32 年は、10,606 人になると予想しています。

●地域公共交通総合連携計画策定の必要性

松田町における公共交通網は、前述のとおり、小田急線を軸とし、町内はもとより寄地区においても新松田駅を中心としてバス路線が広がっており、周辺住民の日常の足として、また足柄上地区を訪れる観光客の足として多くの人に利用されるなど、交通利便性の高い立地であることがうかがえます。

これらの公共交通網は、今後増大する高齢者層の移動ニーズにも的確に応えるとともに、自家用車をはじめとする車社会が直面する環境問題への対応の視点からも、より利便性、快適性を高めつつ、長期的視点に立ってそのサービス水準を維持し、利用促進を図ることが求められており、町内に残る交通空白地域や交通不便地域などを解消し、一定の交通利便が確保できる都市整備を推進する必要があります。

上位計画である「松田町総合計画 2 1 後期基本計画」においても「交通体系の整備」の基本方針にバス路線の運行維持に向けた対策を推進すると位置づけられており、バス交通の活性化が提起され、基本方針として謳われています。

「バスについては、だれもが利用しやすい公共交通としてその確保に努めるとともに、利用者の利便性の向上を図る」

そのためにも、町民ニーズへのより高度な適合を図ると共に、新たな公共交通利用ニーズを掘り起こしていくことを含め、町内及び広域に及ぶ松田町の公共交通網、公共交通サービスのあり方を総合的に点検し、路線バス以外の新たな運行形態や運行形態による公共交通手段の創出を含めた健全な維持のための施策推進が求められています。

松田町はこれらの課題に対応するため、関係機関の連携のもと、地域公共交通会議を設置し、当面の諸課題を解決しつつ、新たな観点から公共交通網の形成とその適切な運用を推進するための指針として、地域公共交通総合連携計画を策定するものであります。